

心はいつも
旅する
加藤 九祚

ユーラシアンホットライン

1999.11.30
VOL-19

▼12日に今年最後の文化講座

日 時：12月12日（日）1時半から「ウラル系の少数民族マリ人」

場 所：オリンピック記念青少年総合センター304号室

講 師：松村 一登／東京大学大学院東洋諸民族言語文化部門教授

西は北欧(フィンランド)・中欧(ハンガリー)から、東はウラル山脈の東側のオビ川流域まで分布するウラル諸語は、すべての話者を合わせても2500万人程度の小さな語族である。マリ語(チェレミス語)を話すマリ人たちは、ボルガ川の中流とウラル山脈にはさまれた地域に分散して住んでいる。マリ人の居住地域は、チュルク系でイスラム教徒のタタール人・バシキール人の住む地域と隣接しており、言語接触、文化接触の視点から眺めるとたいへん興味深い地域である。

マリ語については、『言語学大辞典』(三省堂刊)の「マリ語」の項のほか、インターネットのホームページ <http://plaza3.mbn.or.jp/~kmatsum/Uralic/mari.html> などから情報が得られる。

▼ 武蔵大学特別公開講座 (ビデオ上映会)

シルクロードの要衝・中央アジアの新視点 ～ウズベキスタンの昔と今～

ウズベキスタン共和国を中心とした中央アジアに関する最新情報を紹介します

[日 時] 平成11年12月18日(土) 午後1時30分～3時30分

[場 所] 武蔵大学 AVホール(科学情報センター棟2階)

(交通：西武池袋線 江古田駅南口下車 徒歩8分)

東京都練馬区豊玉上1-26-1

[コメンテータ]

大野 遼(ユーラシアンクラブ代表・元共同通信記者)

☆ウズベク人国費留学生☆

シエルゾット・ザヒードフ(早稲田大学 大学院生)

ファルーフ・ウスマーノフ(慶応義塾大学 大学院生)

[聴講無料]

共 催 武蔵大学・ユーラシア留学生フォーラム実行委員会

企画協力 ユーラシアンクラブ

後 援 ウズベキスタン共和国大使館

●問合せ・申込先

お申込・講座内容関係のお問合せ… ユーラシアンクラブ (TEL: 0463-50-3335 FAX: 0463-50-3336)
(定員80名に達し次第締切)

会場関係についてのお問合せ… 武蔵大学 企画調整課 (TEL: 03-5984-3713)

発行：ユーラシアンクラブ 住所：〒259-1206 神奈川県平塚市真田743-20
電話：0463-50-3335 ファックス：0463-50-3336 Eメール PAF02266@nifty.ne.jp
ホームページ <http://member.nifty.ne.jp/EURASIANCLUB/>

▼イリーナの家が焼失

富士山に登頂して元気に帰国したイリーナ・ティシェナさんの自宅が火災に遭いました。両親がこの七月に新築したばかりの家だったようです。イリーナの愛猫も焼死しました。イリーナは零下三十度と寒くなったシベリアで家の新築に両親と取り組んでいます。クラブではサハ共和国在日代表部を通して6万円の義援金を送りました。

▼ニーナさんと子供たちが白老訪問

ハバロフスクから70キロ北西のナナイ人の民族村シカチアリャンの子供たちとニーナ村長が北海道白老町を訪ね、アイヌとの交流プログラムに参加しました。住民からは文房具や衣類の寄贈を受け、富山の東林さんが受け取り、船便手配で12月シカチアリャンに搬送の予定です。

▼杉山さん、1,000ドルを子供発展センターに寄付

静岡県沼津市在住の杉山一道さんが、「モンゴル子供発展センター」に1000ドルを寄付しました。杉山さんの呼びかけに静岡県内の友人が応じ、「発展センター」を支援している川岡美智恵さんを通して現地に届けられ、ストリートチルドレンを生まないための子どもと親の教育交流施設補修のために利用される予定です。

子供も発展センター事業支援のためクラブでは”里親制度”や支援協力者との明朗な関係を探る努力をしていますが、安定した仲介者、留学生との関係が未構築のままとなっています。帰国した留学生との話し合いが軌道に乗った段階で協力の呼びかけをお願いすることにしています。

杉山さんは2月にもクラブ会員の加藤優幸さんを通して、友人・知人から預かっていた文房具をモンゴルの子供達に届けました。この時も届け先はモンゴル人女性アズザヤさんが貧困家庭のために奮闘している「子供発展センター」です。この「子供発展センター」を支援しているのが日本語教師の川岡さん。届けられた文房具はノート25冊、鉛筆8ダース、クレヨン36色9セット・30色1セット・12色6セット、おりがみ(65枚入り)10冊、おりがみの本1冊です。重量にして9kgでした。

▼サハのナターリヤが日本語の先生に

クラブの催しに頻繁に出席してくれたサハ共和国の留学生ナターリヤさんから手紙がきました。

OHNOさんへ
OHNOさんお元気です。いらっしやいますか。長い間手紙を書かなくて本当に申し訳ございませんでした。私は元気です。明日千葉大学へ留学しに行く学生が出發します。実は十月五日ぐらい出發するようでしたが、突然日本からYさんが電話をかけてくれてJが明日行くようになりまし。だから大学から帰ってきて手紙を書いています。突然だから何から手紙を書き始めようと思っっています。私は八月十五日から大学の仕事が始まりまし。3週間ぐらい修理工事続いていました。九月十二日から大学の授業が始まりました。私はドイツ語学科の一年生にドイツ語と二年生に日本語を教えています。そして通訳学科の二年生にも日本語を教えます。教えることが好きです。大学の先生というのが大きく聞こえるが私にとつてはこれが一大名誉と思います。だからいい先生になるために一生懸命頑張つていきたいと思ひます。ONNOさんご住所とお電話番号をJに教えました。連絡するように伝えます。去年アンドレイと私たいへんお世話になりました。とってもありがとうございまし。今後どうぞよろしくお願ひします。EURASIAN CLUBの皆さまに。よろしくお伝え下さい。ナターリヤ
九月に十七日

1999年度 インターカレッジ文化講座
ユーラシアンフォーラム
“国家、民族、宗教を超えて”

＜第1部＞ インターカレッジ文化講座：

ユーラシアをテーマにした一流の講師陣によるユーラシア講座

＜第2部＞ ユーラシアンフォーラム：現代ユーラシアで活躍する人物や留学生のショートスピーチを中心にした理解、親睦、協力促進を目的にしたフリートーク

時間：月1回、いずれも日曜日午後（第1部…1時半～3時半，第2部…3時半～5時）

会場：オリンピック記念青少年総合センター センター棟講義室

＜第1部プログラム＞

[ユーラシアの宗教シリーズ～Ⅰ.ユーラシアの天国と地獄]

- 4月25日 「特別シンポジウム・ゾロアスター(教)の誕生と背景」
309号室 岡田 明憲／和光大学非常勤講師・日本オリエント学会会員
井本 英一／桃山学院大学教授
前田 耕作／和光大学人文学部芸術学科教授
- 5月16日 「ゾロアスター教と世界宗教」
405号室 岡田 明憲／和光大学非常勤講師・日本オリエント学会会員
- 6月20日 「古代日本とゾロアスター教」
405号室 岡田 明憲／和光大学非常勤講師・日本オリエント学会会員

[ユーラシアの民族シリーズ～Ⅰ.ユーラシア源流探訪・少数民族から見たユーラシア]

- 10月17日 「中国新疆ウイグル自治区の満州族“シボ族”」
405号室 楠木 賢道／筑波大学歴史人類学系講師
- 11月14日 「ロシアのモンゴル国“カルムイク”」
304号室 バドマ アルタフ／カルムイク自治共和国対外経済関係庁主任専門官
- 12月12日 「ウラルの少数民族マリ」
304号室 松村 一登／東京大学大学院東洋諸民族言語文化部門教授

[ユーラシアの歴史文化シリーズ～Ⅰ.ユーラシアの潮流]

- 1月23日 「ユーラシア再発見・忘れられた超大国—オスマントルコ」
304号室 鈴木 薫／東京大学東洋文化研究所教授
- 2月20日 「生活文化編・飛天の系譜—天使、ドラゴン、鹿、英雄」
403号室 前田 耕作／和光大学芸術学科教授
- 3月12日 「特別フィールドレポート・
304号室 玄奘三蔵が訪れた寺院カラテペ(ウズベキスタン)発掘報告」
加藤 九祚／国立民族学博物館名誉教授

＜第2部プログラム＞

文化、暮らし、経済、社会、外交など多岐にわたる内容のショートスピーチ
発表者：・ユーラシアで活躍するモンゴル人、ウイグル人の事業家

- ・日本で留学、研修中のユーラシア諸民族の青年
- ・諸民族の交流支援団体、注目される活動のリーダー
- ・在日大使権、政府系機関の代表、等

【ユーラシアの歴史文化シリーズ I】

ユーラシアの潮流

① 1月23日(日) 「ユーラシア再発見・忘れられた超大国—オスマントルコ」

鈴木 董／東京大学東洋文化研究所教授

西欧世界が近代へと移ろうとする頃、ユーラシア西半に君臨した超大国は、オスマン帝国であった。前近代のイスラム世界の歴史の後半における、イスラム的世界帝国ともいべきこの帝国は、東西交易の要路を手中にし、強大な支配組織の下に、多種多様な地域、人々を包含する広大な領域を多年にわたって支配した。本講では、本邦では知られることの少ない、この忘れられた超大国の興隆と衰退の歴史を振り返ってみたい。

② 2月20日(日) 「生活文化編・飛天の系譜—天使、ドラゴン、鹿、英雄」

前田 耕作／和光大学芸術学科教授

レンブラントが『マノアの祭壇』を描いたとき、天使に翼をつけるべきかどうか、さまざまな試描の果て、ついに不朽の形象に至りつた話はあまりにも有名である。これは、天使は有翼であるとしてきたヨーロッパの既成概念を、大いにゆさぶった。キリスト教における有翼の天使像の成立は、紀元後6世紀にすぎない。アジアの天使像はそれよりも遥かに古く、伝統もながい。そして飛天にいたっては有翼、無翼その形象は多様で変化に富む。アッシリアからイスラームまでその多彩な飛天の系譜と、飛天に託された意味を問う。

③ 3月12日(日) 「特別フィールドレポート・

玄奘三蔵が訪れた寺院カラテペ(ウズベキスタン)発掘報告」

加藤九祚・国立民族学博物館名誉教授

中央アジアのカラテペで、6～7世紀と思われる塔(ストゥーバ)を発見した。その下には、さらに古いストゥーバがあることは確かである。発見したメインストゥーバは、中心を異にする小ストゥーバを中に一つ包み込んだものであることが判明した。中のストゥーバは、メインストゥーバより古いものだと考えられている。現在いろいろなストゥーバの形が知られているが、この中央アジア発見のストゥーバは、一つの新しい形式であると考えられる。今のところ、その意味については不明だ。インドからガンダーラ、アフガニスタン、中央アジアに至るストゥーバの形式変容の系譜について、調査結果にもとづいて考えてみたい。

▼ウズベキスタンの陶芸家アリシエルさん帰国

前号のニュースレターでお知らせしたブハラ陶芸家アリシエルさんが九谷焼の窯元での6ヶ月の研修を終え、帰国しました。帰国直前、懇談しましたが、それによるとこの間制作した陶磁器は200数十点。小松市で個展を行いました。来年2月にも個展を予定しています。小松市とブハラの姉妹都市交流が進展しそうな気配です。

アリシエルさんには、現在サマルカンド外国語大学で日本語講師をしている会員山本雅宣さんを紹介、アリシエルさんは「サマルカンドに姉がいる。帰国後早々に訪ねて会いたい」と話しました。

●市民平和基金のメールニュースから

日本カフカスクラブとは? ~カフカスの文化を日本に伝えたい~

「カフカスの事を、もっとよく知ってほしい」という思いで設置された有志の会です。全国のさまざまな場所でカフカスの踊りや、文化を通じた活動を行っています。カフカスクラブが今、もっとも注目しているのはチェチェン紛争の問題。

このために、コンサートなどの会場でチェチェン問題のためのアピールをしたり、募金活動を行っています。市民平和基金の提携団体です。

連絡先は岡本珠希さんまで→ kafkasclub@yahoo.com

ホームページもあります。ぜひアクセスしてみてください。

→ <http://www.geocities.com/kafkasclub/chechen/991110-osce.html>

▼ウズベクの観光事情に付いて/提供 シェルゾド・ザヒドフ

トルキスタン通信社によると、1993年に4万人だった観光客が1998年には27万人になった。国営企業ウズベクトゥリズムによると観光客の数は2010年には3.5倍になる見込み。サマルカンドにプレジデントホテル建設のためのジョイントプロジェクトが構想されている。ウズベクとドイツの技術者がこのプロジェクトに取り組んでおり、事業規模は5千23-万ドルで、ドイツの複数の銀行が10年間で2800万ドルを供与する。最初の2年半は、無利子。

イタルータス通信によると、紀元三千年紀の開始とともにウズベキスタンで観光ブームが期待されている。国営間公企業によると年間の観光客は百万人を見込んでいる。この数字はウズベキスタン共和国が独立した1991年の三倍に相当し、ウズベキスタンは大規模ホテルの建設を計画中である。ドイツの企業が受注する見込みである。借款の規模は1200万ドルである。外国側のパートナーは500万ドルを供与し、残金はウズベキスタンが支払う。建設費の総額は5000万ドルを超えると見られる。ウズベキスタンは10年間で2000万ドルの借款をドイツの複数の銀行から受ける予定。サマルカンドのプレジデントホテルは紀元3千年紀の最初の二年で建設される見込み、ウズベキスタンは、大統領のイスラム・カリモフ訪中の際に、中国から1100万ドルの借款を受ける協定を結ぶ(11月9日/イタルータス)

▼「アイヌ展—宇梶静江・古布絵の世界」開催

アイヌの権利向上のため活躍してきた宇梶静江さんが、取り組んできた「古布絵刺繍」の作品を展示する「アイヌ展」が12月4日から28日まで、東京都渋谷区の本ジヤビル内フジテヴァンティミュージアムで開催されます。

▼“希望99”(第2回中国新疆ウイグル自治区海外学者学術交流会)開催

ムタリフ・アブリミティ

“希望学術交流会”は新疆ウイグル自治区で研究中の皆様、また新疆 ウイグル自治区から日本をはじめ他の外国に留学中の各民族学者、研究者、学生達の今までに得られた研究成果を発表することを目的として、去年から行われています。この学会は祖国の発展、特に少数民族地域の発展と科学技術水準を高めるために非常に大きな役割を果たすと期待されています。会議の論文は編集の上、出版され自治区の科学者、また各専門分野の学生達の参考になることを期待してお贈りするようになっています。同時に国内外の学者達がこの論文集を利用できるようにいくつかの大きい図書館にもお届けするようにしています。

“希望98”(第一回新疆ウイグル自治区海外学者学術交流会)は東京理科大学のMamtimin Gheni会長を始め実行委員会のご努力と、また新疆ウイグル自治区教育国際交流協会と日本私立大学協会のご指導とご支援のもとに、1998年10月19日に東京理科大学で開催されました。東京、大阪、名古屋、福岡から45人もの方々が参加し、21編の論文が報告されました。学会の雰囲気と科学性が、会議に参加された日本の学者達から高い評価を得ました。この交流会の精神が新疆日報でも報道されました。さらに論文集の編集が終わるまでに中国、日本、アメリカ、フランス、ドイツ、イギリス、トルコなど各国から51編の学術論文を受理しました。そして論文集が今年の7月に出版されました。この論文集巻頭には新疆ウイグル自治区政府、また教育委員会の方々のお祝いの言葉も掲載されております。(出版番号: ISBN: 4-9980769-0-6)

そして今年、第二回新疆ウイグル自治区海外学者学術交流会(希望99学会)が、10月30日(土曜日)に東京電機大学で開催されました。今回の学会には東京、大阪、名古屋、福岡、北海道、京都、北京、ウルムチ等地から53人もの方々が参加し、電子工学、情報科学、システム工学、医学、薬学、化学、経済学、地理学、流体力学、生態学そして環境などの分野から19編の論文が報告されました。来年の4月1日まで論文の受付を続けます。

そして希望99編集委員会から編集され来年の7月1日に論文集が出版される見込みです。

▼クラブ幹事会開催

11月28日、年に1回の幹事会が開催されました。前回の幹事会以降の活動を報告し、今後の活動の方向、クラブ改革等に付いて話し合いました。この結果、ユーラシアの留学生を通した活動の活性化と活動拠点の確保等を確認、新春もう一度幹事会を開催し、クラブ改革を実施することを決めました。

▼サマルカンドの山本さん一時帰国

クラブの会員で9月からサマルカンド外国語大学の講師として赴任していた山本雅宣さんが、東京で開催されたJATA(日本国際観光協会)主催の観光見本市に出展したサマルカンドの旅行会社の通訳として一時帰国しました。見本市にはタシケント、サマルカンドといったウズベキスタンの観光会社のほか、キルギス、トルコ、モンゴルなどユーラシア各地の旅行会社も参加、ユーラシアの新しい時代の潮流を感じさせる活気がありました。山本さんは旅行会社のためにパンフレット作り、紹介ビデオづくりなどに協力、見本市のブースでは、訪ねてくる日本の旅行業関係者に応対するだけでなく、精力的に昔の知人に連絡を取り、ウズベキスタンと日本の旅行事業のパイプ役として仕事していました。クラブでは、事務局運営委員6人が訪ね、ご苦勞をねぎらいました。

●ユーラシアンクラブの通信事務は以下の通り変更となりました●

よろしくお願ひします。

〒259-1206 神奈川県平塚市真田743-20

一部の方に<743-21>とご連絡しましたが、これは誤りでした。お詫び・訂正致します。

TEL: 0463-50-3335 FAX: 0463-50-3336

発行: ユーラシアンクラブ 住所: 〒259-1206 神奈川県平塚市真田743-20
電話: 0463-50-3335 ファックス: 0463-50-3336 Eメール: PAF02266@nifty.ne.jp
ホームページ: <http://member.nifty.ne.jp/EURASIANCLUB/>